

苗場山麓ジオパーク学術研究実施報告書（鑑文）

平成 28 年 1 月 31 日

団体名（所属）信州大学 大学院 総合工学系

代表者名（氏名）大杉 周

1 研究の名称

2 研究のテーマ

苗場山麓の森林植生ごとのシダ植物の分布と種構成について

3 調査・研究等の日程と概要（調査区域や地点・調査方法など）

※これまでの実績と今後の予定

日程	主な調査・研究等の概要
平成 27 年 9/3 ~ 9/5 9/12 ~ 9/15 10/3 ~ 10/4 平成 28 年	調査地の選定と現地でのシダ植物の標本採取 森林セラピー基地における林冠高木（胸径直径 > 40cm）の樹冠下のシダ植物の種組成を記録。 森林セラピー基地における2度目の調査。スギ林全域とその周辺のブナ林の調査を終了。 スギ人工林と（ブナを含む）広葉二次林で、林冠高木層、低木層の投影図とシダ植物の分布図を照合し、上層木の被陰によるシダ植物の分布と種構成について調査する。

4 調査・研究結果（概要）

森林セラピー基地内の植生を「スギ人工林」「ブナ二次林」、境界線上の「混交林」の3タイプの森林タイプに区分し、タイプごとに林冠を形成する胸径直径 40cm 以上の樹木の樹冠下ごとに出現したシダ植物の種数を記録した。
結果として、1本の高木に対するシダ植物の出現種数頻度は、スギ人工林が 3.28 種、混交林が 2.47 種、ブナ二次林が 1.23 種となり、スギ人工林におけるシダ植物の頻度の多さとブナ二次林の低さが明らかとなった。新潟県内における他の調査地と、シダ植物の種組成を比較した所、類似度は 0.4 ~ 0.6 と高く、共通種も新潟県を含む多雪地で一般的な種が多かった。

※調査・研究結果がわかる資料を添付してください。